

11月号

第430号

# いっしん

令和2年(2020年)

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市  
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-62-2895 /FAX 020-4665-5653  
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPはカラーです》

甘木親教会  
初代教会長  
安武松太郎師御款

親思う  
心は人の  
まことなり  
神も愛ぐしと  
みそなはすらむ

教祖様137年 教団独立120年 小倉布教135年 甘木布教116年  
安武松太郎大人69年 安武文雄大人25年(式年祭11月23日) 加治木教会布教69年



## 御本部生神金光大神大祭

参拝

十月三日(土)～四日(日)

高速道路から見下ろす、中国地方の田圃のあぜ道に、ヒガンバナが赤く咲き並ぶ風景を眺めながら、一教会より二名以内というコロナウイルス感染症対策の条件付き参拝で、お仕えされた御本部生神金光大神大祭でした。

十月三日(土)は、甘木親教会の月例祭に参拝させていただきました、来年五月にお迎えさせていただく、加治木教会布教七十年記念大祭の日程を親先生に伺わせていただきました。

また、甘木親教会 月例祭の親先生のご教話を拝聴させていただきました、予定の御用も終えて、十五時ちょうどに甘木親教会を出発し、ご霊地に向かい、光風館に到着したのは、午後九時でした。

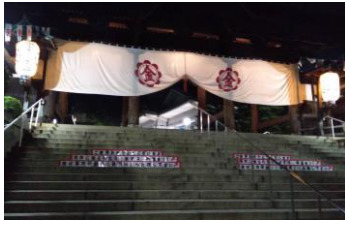
ご霊地での「夜の教話」や「吉備舞の夕べ」などの行事は、コロナウイルス感染症対策のためにすべて中止となりました。(次ページ)

少し遅い夕食を光風館の喫茶スペースで頂き、翌朝のお出ましお迎えに備えさせていただきました。

四日の早朝、金光様のお出ましお迎えをさせていただき、午前四時の御祈念を頂き、御結界にて加治木教会の信奉者一同の御礼とお願ひ、また布教七十年記念大祭のお届もさせていただきました。

十時からのご祭典前に、教祖様の奥津城はじめ各奥津城に参拝させていただきました。

また、ご祭典前の教話がないことを確認し、本部教庁舎一階で開かれています「中村哲医師追悼展」の展示写真もシックリと見学させていただきました。



早朝の境内正門(10/4)



「中村哲医師追悼展」



教祖様奥津城(10/4)



御大祭前の境内(10/4)



御大祭前の祭場(10/4)

中村哲医師は、昨年八月(十二月亡くなる)ご縁があつて本部施設において講演をされました。

アフガニスタンの干ばつに苦しむ多くの人たちを助けるために命をかけて大変な働きをされ通されました。

そのような方が、ご霊地の土を踏んでおられたことを思うと、世界人類の助かりを祈る金光教の道が、尊い働きに寄与していたわけで、有難く誇らしく思えます。

午前十時前、祭場に入る前に検温があり、各教会二枚ずつ、番号が記入された札を受け取り、前後左右にスペースを取った指定席に座らせていただきました。

十時より、教主金光様の思し召しを受けられた金光浩道先生ご祭主のもと、麗しくご祭典がお仕えになられ、久しぶりに加治木教会を代表してご霊地参拝のおかけをいただき、御本部でのご祭典を仰がせていただきました。

祭詞では、御取次の道を開かれた教祖様のご威徳をおたえ申し上げ、『世界の平和と人類の助かり』の実現、一日も早く新型コロナウイルス感染症の終息を迎えることができ、国内外のさまざまな苦難に遭った全ての人々の上に、安心、立ち行きの大みかげを蒙ることができるようにと願われました。

# 小倉教会布教百三十五年

## 記念大祭

十月二十日(火)、小倉教会の布教百三十五年記念大祭に参拝させていただきました。

各教会から教師のみの参拝で本部御大祭に準じてという参拝形態でした。



そのため加治木教会からは、運転の御用に当たる上田和也さんと二人での参拝となりました。

また、枕崎教会の松下淑子さんも教会長先生の代わりに一緒に参拝されました。

清々しい秋晴れの下、麗しく厳粛に小倉教会の布教百三十五年記念大祭が、桂 眞津子 親先生ご祭主のもとにお仕えになりました。

ご祭詞には、今日までの小倉教会の布教の上にとれほど深く厚い親神様・教祖様・四神様方のお恵み・お祈り・お働きがあられたことか、という御礼の意味合いが込められていました。

桂 眞津子 親先生のご教話は「信心は報恩、けっして忘恩ということになってないけません」との内容で、初代 桂 松平先生の時代の実例を挙げられて、緊張感がみなぎり、気迫に満ちたご教話を拝聴させていただきました。

帰りには、小倉教会の奥津城に参拝させていただき、桂 松平先生はじめ桂家の霊様方に、九州開道のため

に心血を注がれてご苦労下されたことに御礼申し上げて、小倉の地をあとにさせていただきました。



小倉教会布教百三十五年記念大祭

### 桂 眞津子 親先生

#### ご教話(要旨)

記念祭は、日々の平々凡々のお礼を皆で一斉に申し上げる事です。神様・靈様に助けてもらわないと記念祭はできません。しかし、人間のできることは、できる限りさせてもらってということが条件です。

○ 恩を忘れる「忘恩」ということが、信心のタメの第一位です。

ここに来るまでの、初代・二代の皆様のご苦労、ご先祖様のご苦労を忘れてはなりません。



小倉教会長 桂 眞津子 親先生

○ 教祖様は、四十二才のご大患の大神恩を一生忘れられなかった、信心の巧者の第一人者です。

○ 「礼」というものは「敬」をもって生じる「慢」をもってすたれる。「慢」とは慢心、自惚れのこと。

○ 教祖様は、近藤藤守先生が入信間もない頃に、教祖広前で国枝三五郎さんのことを「腹からの信者」と言われた。

○ 眼が見えないで、信心に励んでおられた国枝三五郎さんは、親子で信心に励んでおられて、やがて眼が見えるようになられた。教祖様が「腹からの信者」と言われたくらい、神様のみ教え通りに信心を進めることが大切です。

○ 小倉教会の桂松平先生の時代、石田という人が、全盲で困って兄に連れられ大阪に向かう途中で参拝し、松平先生から「信心なされませ、一ヶ月ほどでおかげになりましたよ」と言われ、一ヶ月ほどで少しずつ目

が見えだして、その後、日参して信心に励み、やがて全快して喜んでいました。

○ 信心に励んでいてもおかげを受けると人心が出て、一時里に帰ることにした。

○ 松平先生から「この御神米、百体がなくなる前に帰ってきなさい」と、難儀な人を助け導くために御神米百体を預かり里帰りした。

○ しかし、里へ帰ると信心のない親戚から「薬が効いたから、時期が来たから良くなった」と言うて、引き留められた。

○ やがて御神米百体がなくなり、一週間、二週間と経つうちに、再び目が見えなくなり、慌てて小倉教会に戻って来ておすがりしたが、後々見えるようにはならなかった。

○ 重住楽太先生(小松島教会初代)のお姉さんも、仏教の家に嫁いで重い病気にかかり、松平先生から「信心したら助かる、婿が信心がないなら離婚しても帰ってきて信心すれば助かる」と言われて、離婚して子供を置いて帰ってきて信心に励み



良くなった。  
良くなると、やがて人心が出るようになり、子供のことを思い、家のことを思い、楽太先生が松平先生にお願いして帰ることにした。

松平先生は別れを惜しんだ、戻って来れなくなることを知ってあった。楽太先生のお姉さんは、子供や夫の居る家に戻ると間もなく急死し、楽太先生に訃報が届く前に、霊となって小倉教会にお詫びに参拝して、松平先生は「姉は霊となって、そこにお詫びに来ているぞ」と楽太先生に言われた。  
○ 一遍神様に誓っておかけを頂いたなら、心を狂わさぬことです。

○ 仏教の教えにも、頼りにするもの最後は「私自身」であるとのこと、それは教えを聞き込んで、磨きに磨いた私自身になっておくことです。  
『己こそ己の寄るべ、己を置きて誰に寄るべぞ。よく整えし己こそまこと得難き寄るべなり。』と教えられています。  
○ 自分自身に、教えを聞き込んで、確立した信心があるかどうかが大切なのです。

○ 大祭は、神様の真心と人の真心のあいよかけよです。人間として一生懸命真心を尽くすことが大切です。



○ 布教百五十年、二百年に向けて、第一歩を進めるのは、誰でもない、ここにいる私たちです。

(おわり)

# 熊本県南部豪雨

## 復興支援活動

十月十四日(水)・十五日(木)・十六日(金)と、三日間続けて人吉教会において、少年少女会連合本部・甘木教会手続き・鹿児島地方教会連合会の有志十名ほどにより、フローリング張り、石膏ボード張り及びパテ埋め、扉の設置などの作業が行われました。  
(加治木教会からは、二日間のみ参加)

いろいろな機械や道具があり、十分指導を受けながら、お手伝いをさせていただきました。

建築関係の知識や経験の豊富なメンバーが何人もおられるので、DIY(ディー・アップ)の勉強になりました。

経験の浅い者にとっては、どのような作業も恐る恐るやってみますがやはり難しいことばかりでした。

人吉教会は、境内・建物が比較的広いので、工事も簡単には終わりました。長期戦となるようです。

帰途に通った、教会近くの川下り船の業者は営業を再開できず、玄関

前に「臨時休業」の看板が立てられて、船がたくさん並べたままでした。温泉老舗街も、まだまだ再開の見込みがなさそうです。

多くの店舗では復興半ばで内装工事の途中で、観光地としてはまだまだ再開の見込みが立たないというのが実情のようです。

◆◆◆◆◆

十月二十八日(水)・二十九日(木)、人吉教会において、甘木教会関係・熊本県下・鹿児島県下の有志により、クロス貼りの作業が行われました。  
(加治木教会からは、二日間のみ参加)

クロス貼りは手作業でポツポツ糊付けされるのだろうと予想していたのですが、杷木教会から糊付け機が運び込まれ、業者さんからの作業となりました。

専門的な作業でしたが、よく見学して、習って、少しでも手伝ってみましたが、簡単ではありませんでした。クロス貼りの良い勉強になりました。



十月十四日の作業  
十月十五日の作業



感 詠

教会長（令和二年九月）

天地（あめ）の気候は四季毎変わりゆき  
 豊かな実りを与えたまへり  
 衣替えする季節なり  
 猛暑とぞ言うておりしは昨日のごとし  
 被災地は業者も支援も足らぬこと  
 思いつ街を見てぞ帰りぬ  
 床張りも壁板張りもしてみれば  
 稽古の要るをあらため思う  
 腰痛の痛みの中にみいだすは  
 あたりまえなるまめの尊さ  
 あたりまえ尊きことを知らずして  
 望みのみあるわが若き頃



あしあと（教会行事報告）

- 10月
- 1（木）●報徳月例祭 10時半  
併せて 教祖ご生誕祭
  - 3（土）〜4（日）  
御本部（聖光天）御大祭参拝
  - 9（金）清掃御用 10時
  - 10（土）●月例祭（天神・月例聖祭）併せて 10時半  
龍笛練習 11時
  - 13（火）復興支援作業（教会長）
  - 14（水）復興支援作業（教会長）
  - 16（木）復興支援作業（教会長）
  - 20（火）小倉教会135年記念大祭
  - 21（水）清掃御用 10時
  - 22（木）●月例祭（天神・共励会）13時半  
復興支援作業（教会長）
  - 28（水）復興支援作業（教会長）
  - 31（土）清掃御用 10時



小倉教会奥津城にて 10月20日

ご霊神様のおまじ

- 十一月
- 小坂道夫 之葬 9日・平成24年
  - 濱口夕工 之葬 11日・昭和12年
  - 中村光志 之葬 12日・平成19年
  - 大重為昭 之葬 13日・平成12年
  - 吉屋アイ 之葬 14日・昭和56年
  - 瀬尾清博 之葬 17日・昭和49年
  - 津上繁子姫之霊神 19日・平成29年
  - 大重愛子 之葬 20日・平成2年
  - 中村ハル 之葬 21日・大正7年
  - 桐野ハル 之葬 21日・昭和63年
  - 金竹ナミ 之葬 24日・平成19年



「先祖のご霊神様の現世・  
 幽冥（かくりよ）でのお働きあつての  
 今日私たちであります。  
 立日の月には、故人を偲び、  
 玉串を奉てんしてお礼を  
 申し上げます。  
 教会では、十日の月例祭で、  
 霊前での玉串の奉てんを準備しています。」

十一月二十日(土) 午前十時半より

加治木教会 月例祭 に併せて

立教記念祭に並び 新穀感謝祭

※教話後、新米のお直会(持ち帰り)

奉仕

十一月二十三日(火・祝)

甘木親教会

安武文雄大人二十五周年祭

【教師のみの代表参拝】

十二月三日(木)

甘木親教会

生神金光大神御大祭

【教師のみの代表参拝】

熊本県南部(人吉)豪雨

復興支援活動実施中

御用奉仕者募集(週一度ほど)

御用日時々実施三・四日前に掲示

御用内容く床張り等工事お手伝い

教会行事

11月

1(日) 月例祭(報徳)

●加治木教会 御大祭 11時

7(土) 大重家霊祭

9(月) 清掃御用 10時

10(火) ●月例祭(生神金光  
大神様) 10時半

19(木) 清掃御用 10時

20(金) ●月例祭(天地金  
乃神様) 共励会 13時半

併せて 立教記念祭・新穀感謝祭

23(祝・月) 甘木親教会式年祭(鹿兒島  
二代文雄大人  
二十五祭)

25(水) 連合会執行部会(鹿兒島  
教会) 10時半

29(日) 東郷教会 津上繁子媛三年祭

30(月) 清掃御用

《未定行事》少年少女会・青年会

11月の、

22日の月例祭は、20日に、

変更されています。

加治木教会布教七十年記念大祭は、令和三年五月三十日(日)と決まりました。

12月

1(火) ●報徳月例祭 10時半

3(木) ●甘木親教会御大祭

9(水) 清掃御用 10時

10(木) ●(生神金光  
大神様) 月例祭 10時半

13(日) 御本部布教功労者報徳祭(参拝は  
未定)

15(火) 連布教協議会(鹿兒島  
教会) 10時半

21(木) 清掃御用 10時

22(金) ●月例祭・共励会 13時半

29(金) 清掃御用 10時

30(土) ●越年祭 13時半

◆二月四日(月) 光風館予約日 10時

布教七十年奉迎(令和三年)

改まりの願い

自己中心の信心から

親神様の御立場に立った信心に、

親神様を使う信心から

親神様にお喜びいただき

「安心いただく信心に、

おかげを信じる信心から

親神様・ご神慮を信じる信心に、

改まらせていただく。